

### Ⅲ 決算収支の状況

#### 1. 実質収支の状況

歳入歳出差引額（形式収支）は、70億9,208万円の黒字であり、これから翌年度に繰り越すべき財源10億7,867万円を控除した実質収支は60億1,341万円の黒字である。

実質収支の標準財政規模（標準的な状態で通常収入されると見込まれる経常的一般財源の規模を示すもので、標準税収入額等に普通交付税を加算した額）に臨時財政対策債発行可能額を加えた額に対する割合である実質収支比率は1.7%であり、前年度（1.4%）を0.3ポイント上回っている。

なお、実質収支が赤字の団体は5団体となっている。

第2表 決算収支の状況

（単位：千円、%（「増減」はポイント））

区 分	19年度 歳入歳出差引額 (形式収支)	実 質 収 支					
		19年度		18年度		増 減	
		収 支 額	比 率	収 支 額	比 率	収 支 額	比 率
市 計	4,186,299	3,333,335	1.3	2,408,981	1.0	924,354	0.3
町 村 計	2,905,784	2,680,077	2.3	2,489,507	2.2	190,570	0.1
市 町 村 計	7,092,083	6,013,412	1.7	4,898,488	1.4	1,114,924	0.3

※ 実質収支比率は加重平均

#### 2. 単年度収支の状況

当該年度の実質収支から前年度の実質収支を差し引いた単年度収支は、前年度の22億622万円の黒字から11億1,492万円の黒字となった。また、単年度収支が赤字の団体は全体の42.5%の17団体(前年度13団体)となった。

#### 3. 実質単年度収支の状況

単年度収支に、実質的な黒字要素である財政調整基金積立額（43億3,496万円）及び地方債繰上償還額（11億7,872万円）を加えた額から、実質的な赤字要素である財政調整基金取崩額（53億1,984万円）を差し引いた実質単年度収支は、前年度の7億3,767万円の赤字から13億877万円の黒字となった。また、実質単年度収支が赤字の団体は全体の35%の14団体（前年度13団体）となった。

第3表 赤字の団体数の状況

区 分		平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
実 質 収 支	市 計	2	3(2)	2	3	2
	町 村 計	5(4)	3(2)	2	1	3
	市 町 村 計	7(6)	6(4)	4	4	5
単 年 度 収 支	市 計	2	4	3	1	4
	町 村 計	30	17	15	12	13
	市 町 村 計	32	21	18	13	17
実 質 単 年 度 収 支	市 計	4	8	6	2	4
	町 村 計	28	18	15	11	10
	市 町 村 計	32	26	21	13	14

※実質収支赤字団体のうち平成15年度については1団体が決算統計上の取扱により、平成16年度については2団体が打ち切り決算により赤字が生じたものであり実質的な赤字団体はカッコ内の数値のとおりである。